

インフルエンザ/COVID-19定点（小児科定点を含む）

※令和5年5月8日から、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染症法上の位置付けが5類感染症になり、定点医療機関による定点把握となっています。

インフルエンザ： 報告数4,037件（前月比1.3）です。8月以降急増しています。全県下から報告がありますが、有明961件（定点当たり120.13）、宇城445件（同74.17）、天草430件（同61.43）と、これらの地区が特に多いようです。県の平均でも定点当たりの報告は50.46で、御船を除き、定点当たりの報告は二桁でした。全ての年齢層からの二桁以上の報告数でした。

新型コロナウイルス感染症： 報告数は1,246件で前月比0.3と減少しました。報告の多い地区は、人吉189件（定点当たり37.80）、有明189件（同23.63）、宇城117件（同19.50）、阿蘇54件（同18.00）です。全県各地より二桁の報告がありますが、8月の7,128件をピークに減少しています。県下の定点当たり報告は、15.58でした。0歳も含めて平均して報告があります。

小児科定点

（全体傾向）

報告総数8,186件（前月比0.77、前年同月比5.02）でした。今年7月以後は、10,000件台の報告でしたが、4ヶ月ぶりに四桁に減少しました。前月から減少した疾患は、新型コロナウイルス感染症です。9月の4,661件から1,246件と、前月比0.3と減少しました。増加が目立つのは、インフルエンザ（前月比1.3）、咽頭結膜熱（同1.9）、A群溶血性連鎖球菌（同1.5）と水痘（同1.7）です。

（疾患別傾向）

1. RSウイルス感染症： 報告数34件（前月比0.3、前年同月比0.3）です。7月693件をピークとして減少し9月101件、10月34件でした。報告数も多いところで菊池の8件、有明と宇城の6件でした。3-4歳の報告がありましたが、多くは2歳までの報告でした。
2. 咽頭結膜熱： 報告数352件（前月比1.9、前年同月比15.3）と9月から急増しています。有明（報告数94件・定点当たり18.80）、菊池（同70件・同14.00）、水俣（同27件・同13.50）からの報告が多いようです。また、御船2件、山鹿1件、そして阿蘇、人吉からの報告はありませんが、これら4地区以外からは二桁の報告がありました。年齢は2~3歳を中心としてはいますが、幅広く分布しています。
3. A群溶連菌咽頭炎： 報告数493件（前月比1.5、前年同月比6.8）と年初頭より右肩上がりの増加が続いており、ここ数年来の流行です。5月以降三桁の報告が、しかも月毎に増加傾向にあります。菊池99件（定点当たり19.80）、熊本243件（同15.19）、八代40件（同10.00）の報告が多いようです。御船29件（同9.67）、有明35件（同7.00）、宇城26件（同6.50）が続いています。山鹿・阿蘇・水俣・人吉・天草に少ないようです。山鹿を除き県下から報告があります。5歳児をピークとした幅広い年齢層からの報告です。
4. 感染性胃腸炎： 報告数993件（前月比1.0、前年同月比1.5）と7月以降は1,000件前後の報告が増減なく続いています。菊池345件（定点当たり69.00）と有明217件（同43.40）、宇城116（同29.00）が目立って多いようです。一方で、水俣3件と天草6件と極めて少なく、報告が二極化しています。年齢別は幅広く各年齢層で二桁の報告があります。例年通りであればこれから増加する時期に入っており注意は必要です。

5. 水痘： 報告数33件（前月比1.7、前年同月比1.2）と、7月以降9月を除いて30数件の報告です。報告数は菊池15件定点当たり3.00が最も多く、次に熊本7件、有明6件なのですが、阿蘇・水俣・人吉・天草を除いて県下から数件の報告が見られます。年齢別では、報告の半数が10歳以上の14件ですので、2014年に水痘予防接種は定期化されており、現在1歳以上10歳以下の小児は接種が済んでいると仮定すれば、2歳から8歳までの報告がやや少ないことは予防接種効果とも考えられます。水痘と診断された場合には予防接種回数を同時に報告してみたいかがでしょうか。また、水痘報告の多い地区で接種率の低さが確認できれば、接種推奨もできると思います。
6. 手足口病： 報告数515件（前月比0.9、前年同月比1.6）と、8月以降は横ばい状態です。菊池101件（定点当たり20.20）、宇城69件（同17.25）、八代63件（同15.75）、人吉45件（同15.00）に多いようです。阿蘇からの報告はなく、山鹿・水俣は数件の報告ですが、これ以外の地区からは二桁の報告があります。1～2歳で報告の半数を占めています（345/515）。
7. 伝染性紅斑： 報告数2件（前月比0.2、前年同月比0.7）のみでした。少数ではありますし、今月は先月（9件）より減少しましたが、増減の繰り返しで、全体として増加傾向にあるとも考えられます。熊本と山鹿から各々1件です。1歳と3歳でした。
8. 突発性発疹： 報告数94件（前月比1.2、前年同月比0.9）と、例年とあまり変わらない推移です。菊池24件（定点当たり4.80）、宇城9件（同2.25）、有明11件（同2.20）、熊本35件（同2.19）に多いようですが、阿蘇・水俣を除き県下各地から報告があります。3歳以下からの報告でした。
9. ヘルパンギーナ： 報告数165件（前月比0.6、前年同月比1.3）で、7月以降減少しています。菊池38件（定点当たり7.60）、八代29件（同7.25）、天草22件（同5.50）に多く見られましたが、一方では報告のない地区もあり二極化していました。1～2歳を中心としています。各小児年齢から報告がありました。
10. 流行性耳下腺炎： 報告数8件（前月比0.7、前年同月比8.0）と、本年4月から増加していましたが8月の24件をピークとして減少に転じています。熊本・菊池・御船・有明・天草から1～2件の報告があります。3歳～6歳の報告です。当院（病原体定点）から本年も耳下腺炎から4検体を保環研に提出していますが、現時点でのMumps virusの検出はありません。

眼科定点

1. 急性出血性結膜炎： 報告はありません。
2. 流行性角結膜炎： 報告数33件、前月比1.6とやや増加しています。熊本29件、菊池2件、有明及び天草各1件の報告です。年齢別では30～59歳にピークが見られますが、6歳以下の小児層及び60歳以上にも少数ながら散発しています。

STD定点

※平成25年1月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が13医療機関から16医療機関に増えました。

1. 性器クラミジア感染症： 報告数75件（前月比1.0、前年同月比1.2）で、前月比はほぼ同数で前年同月比では微増しています。男女別では男性が41件、女性は34件で、罹患年齢層は男女共に15歳代～69歳と幅広い状態でした。保健所別発生件数は熊本が60件、御船が6件、有明と宇城が共に3件、菊池が2件、八代が1件でした。

2. 性器ヘルペスウイルス感染症：

報告数21件（前月比0.9、前年同月比1.0）で、前月比で微減、前年同月比は増減無しでした。男女別では男性が10件、女性が11件で、罹患年齢層は男女共に20歳～70歳以上でした。保健所別発生件数は熊本が13件、八代が4件、菊池と宇城が共に2件でした。

3. 尖圭コンジローマ：

報告数は11件（前月比1.1、前年同月比1.8）で、前月比は増減無く、前年同月比で倍増に近い増加を示しています。男女別では男性が10件で女性が1件で、罹患年齢層は男性は15歳～59歳、女性は25歳～29歳でした。保健所別発生件数は熊本が10件、宇城が1件でした。

4. 淋菌感染症：

報告数は33件（前月比1.4、前年同月比1.4）で、前月比/前年同月比共に増加をしています。男女別では男性が30件で、女性は3件で、罹患年齢層は男性が15歳～64歳、女性は15歳～24歳でした。保健所別発生状況は熊本が31件、有明と宇城が共に1件でした。

基幹定点

（月報分）

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：

報告数は30件（前月比：1.1、前年同月比：2.0、男女比：21/9）と増加傾向でした。熊本（12）、有明（6）、阿蘇（5）、山鹿（3）、八代（2）、菊池・天草（各1）でした。年齢分布としては70歳以上（21）、55-59歳・60-64歳（各2）、1-4歳・25-29歳・30-34歳・35-39歳・65-69歳（各1）と高齢者に偏りつつ、全世代で認められました。

▼例年より増加継続傾向の報告数で経過していますので注意が必要です。

2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：

報告数は1件（前月比：1.0、前年同月比：0.5、男女比：0/1）と減少傾向でした。熊本（1）で、年齢分布としては70歳以上（1）でした。

▼例年より少ない報告数でした。

3. 薬剤耐性緑膿菌感染症：

報告数は0件（前月比：-、前年同月比：-）で報告はありませんでした。

▼例年より少ない報告数で推移しています。

（週報分）

1. 細菌性髄膜炎：

報告数は2件（前月比：-、前年同月比：2.0）で増加傾向でした。熊本・有明（各1）でした。年齢分布としては60-64歳・70歳以上（各1）でした。

▼例年より多い報告数でした。

2. 無菌性髄膜炎：

報告数は3件（前月比：1.5、前年同月比：1.5）と増加傾向でした。熊本（2）、阿蘇（1）でした。年齢分布としては70歳以上（2）、15-19歳（1）でした。

▼例年より多い報告数でした。

3. マイコプラズマ肺炎：

報告数は5件（前月比：-、前年同月比：-）で急増傾向でした。水俣（4）、八代（1）でした。年齢分布としては5-9歳・10-14歳（各2）、70歳以上（1）でした。

▼10月に入ってから急増であり近隣諸国における蔓延との関連性も示唆され注意が必要です。

4. クラミジア肺炎：

報告数は0件（前月比：-、前年同月比：-）で報告はありませんでした。

▼引き続き報告はありません。

5. 感染性胃腸炎（ロタウイルスによる）：

報告数は0件（前月比：-、前年同月比：-）で報告はありませんでした。

▼昨年10月以降、引き続き報告はありません。

届け出対象感染症

1類感染症	： 報告はありませんでした。	
2類感染症	： 結核	18件
3類感染症	： 腸管出血性大腸菌感染症	4件
4類感染症	： つつが虫病	1件
	レジオネラ症	2件
	日本紅斑熱	6件
5類感染症	： クロイツフェルト・ヤコブ病	1件
	侵襲性肺炎球菌感染症	1件
	水痘（入院例）	1件
	播種性クリプトコックス症	1件
	梅毒	12件
	百日咳	2件